

Hosokawa Micron Group

会社説明会

<個人投資家様向け>

平成24年1月18日(水) 13:35～
於: 日本証券アナリスト協会



Process Technologies for Tomorrow

ホソカワミクロン 株式会社

代表取締役社長 宮田 清巳

<http://www.hosokawamicron.co.jp/>

目次

1. 会社概要
2. 事業の紹介
3. 特徴
4. 経営方針
5. 業績の推移
6. 今後の見通し
7. 株主還元

1. 会社概要

- 概要
- 沿革と技術の歴史

会社概要〔2011年9月現在〕

創業	1916年(大正5年)4月
設立	1949年(昭和24年)8月
資本金	144億9,600万円
株式	東証・大証 一部上場
従業員	連結 1,426名 単体 360名
決算月	9月

産業用機械を製造するが、いわゆる“メーカー”とは異なる

- ⇒ 製造工程従事者が極端に少ない
- ⇒ 技術開発型人材集団

会社概要〔2011年9月現在〕



海外連結子会社 14社 17拠点
国内(本社含む) 3社 8拠点

ホソカワミクロン 95年の歴史(主な沿革)

1916年 細川永一、細川鉄工所 創業

1949年 株式会社細川鉄工所 創業

1957年 東京支店 開設

1958年 細川粉体工学研究所 設立

1960年 イギリスにホソカワ インターナショナル社 設立

1972年 イギリスにホソカワ ヨーロッパ社 設立

1973年 大阪府枚方市に本社事務所・枚方工場 完工

1980年 ホソカワミクロン株式会社に社名変更

1982年 オランダ ナウタミックス社をM&A

1985年 アメリカ USフィルターシステムズ社をM&A

1987年 ドイツ アルピネ社をM&A

1991年 (財)ホソカワ粉体工学振興財団 設立

1992年 ビーペックス・グループ企業をM&A

東京、大阪証券取引所1部上場

奈良県五條市 奈良工場 竣工

茨城県つくば市 粉体技術開発センター 竣工

2007年 新本社ビル 完成 (枚方市)

2009年 つくば受託加工センター 完成

アルピネAG(ドイツ)新工場 完成

2010年 ビーペックス社(ドイツ)新テストセンター 完成

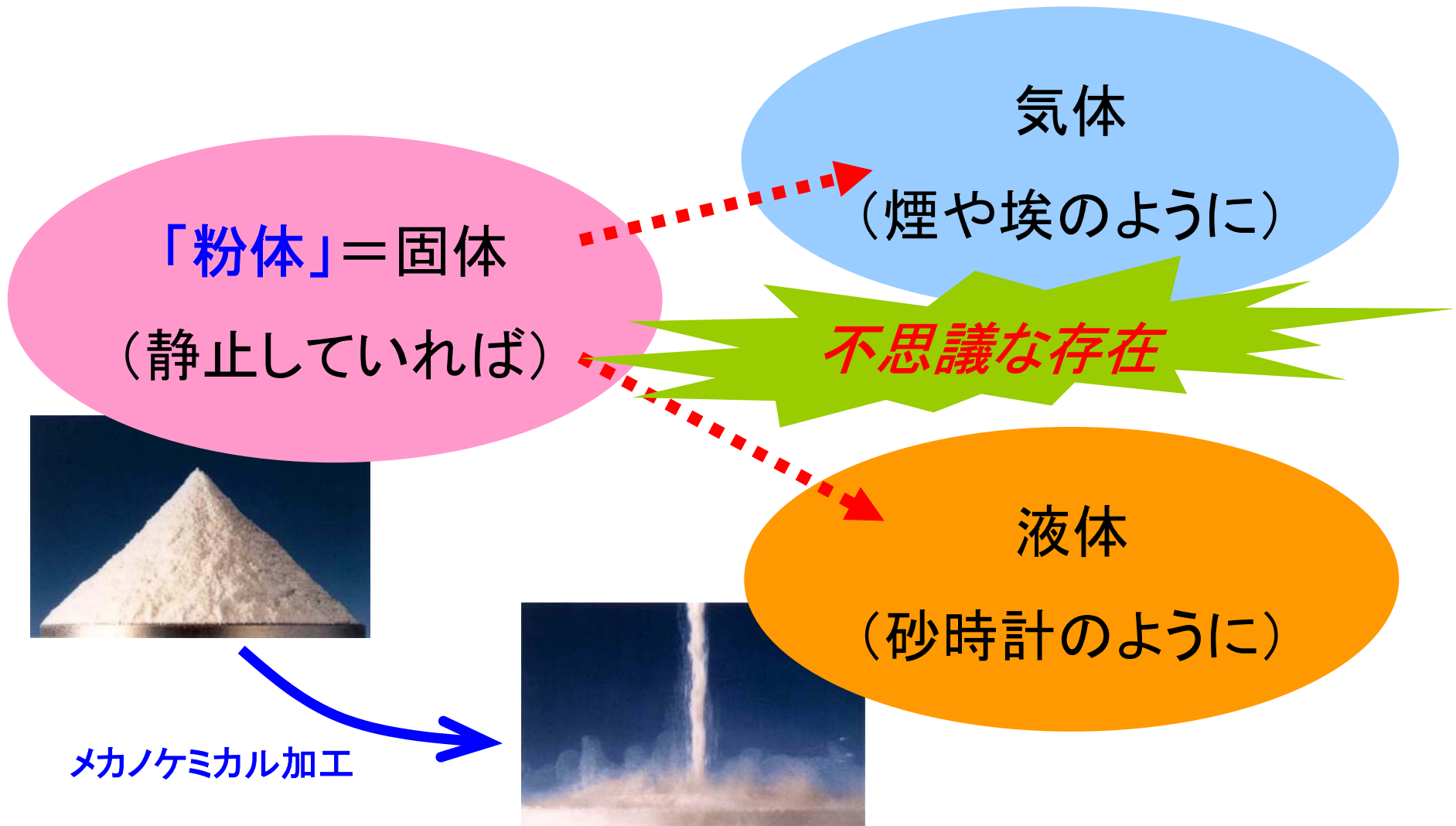
2011年 日清エンジニアリング(株)と業務提携

2. 事業の紹介

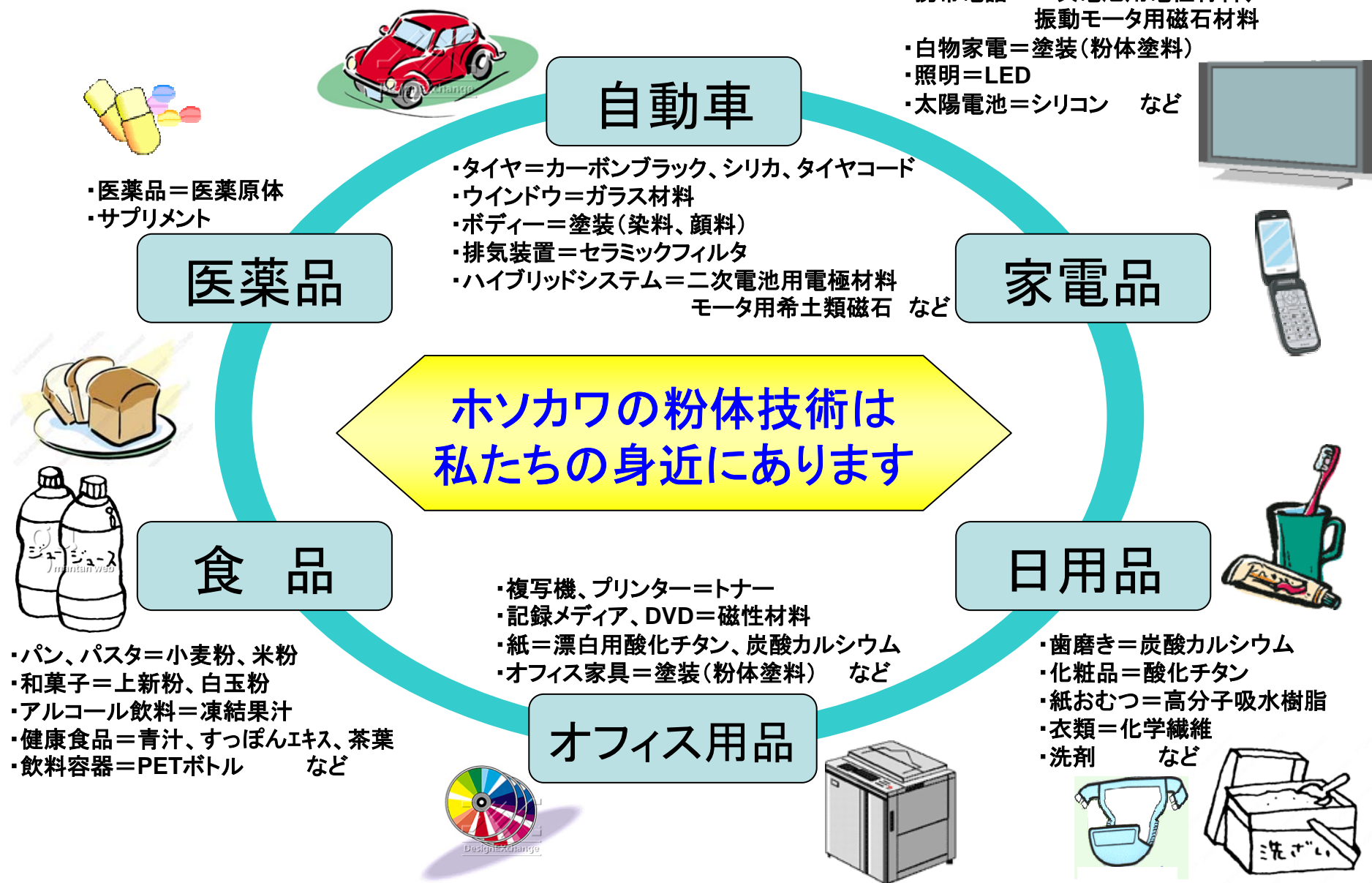
- ・粉体とは
- ・生活に息づく粉体技術
- ・ホソカワミクロングループの粉体技術
- ・3つの事業

「粉体」とは？

⇒ 固体？ 液体？ 気体？ …… “粉体”

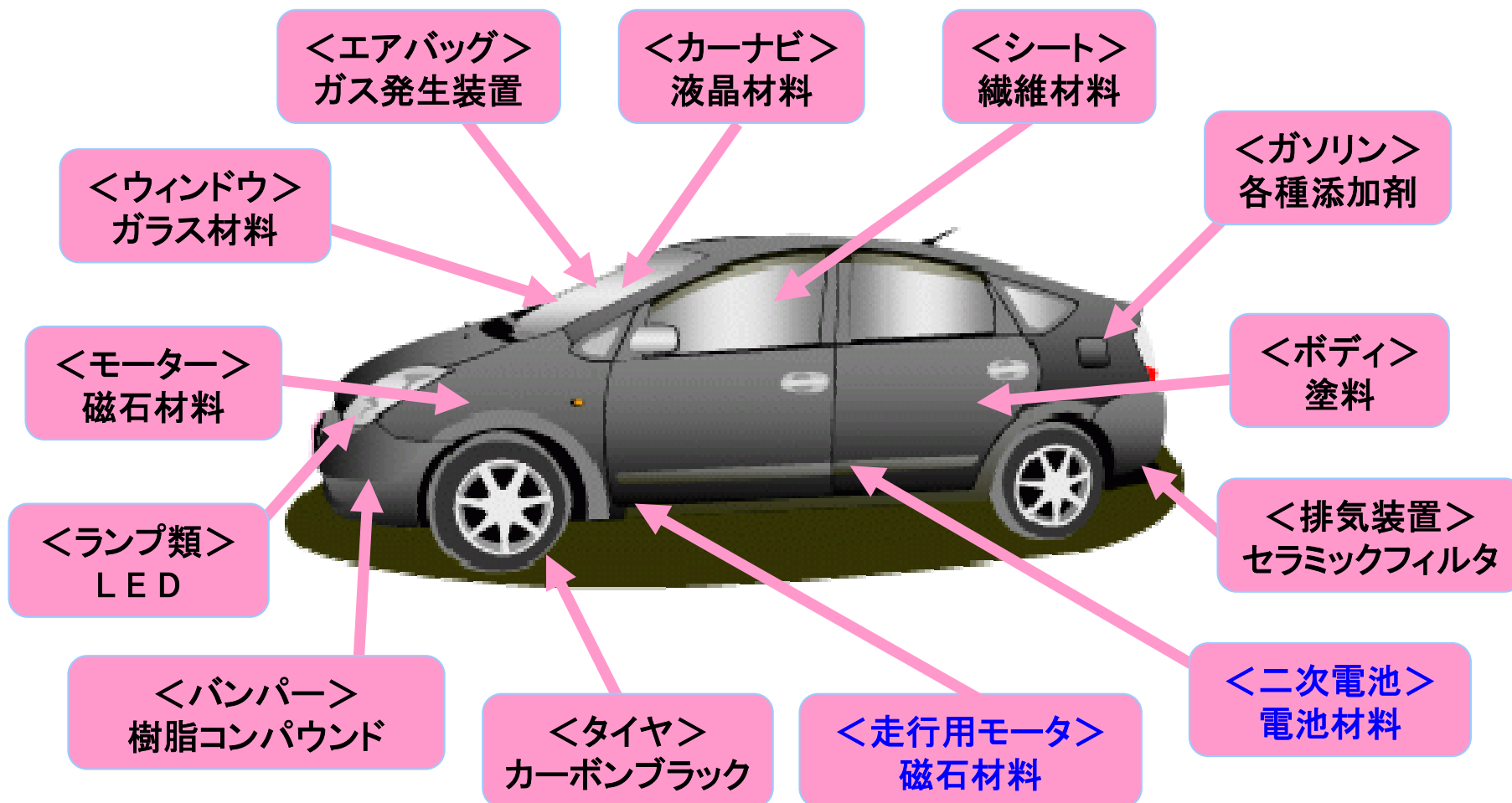


私たちの生活に生きる“粉体技術” ①



私たちの生活に生きる“粉体技術”②

自動車部品は、“粉体技術”の宝庫



3つの事業

1. 粉体関連事業
2. プラスチック薄膜関連事業
3. 製菓関連事業

3つの事業 / 粉体関連事業

- **機械販売**

粉砕、分級、混合、乾燥などの粉体関連機器の製造・販売

- **メンテナンス**

販売機器の保守・修理、
純正部品販売、改造

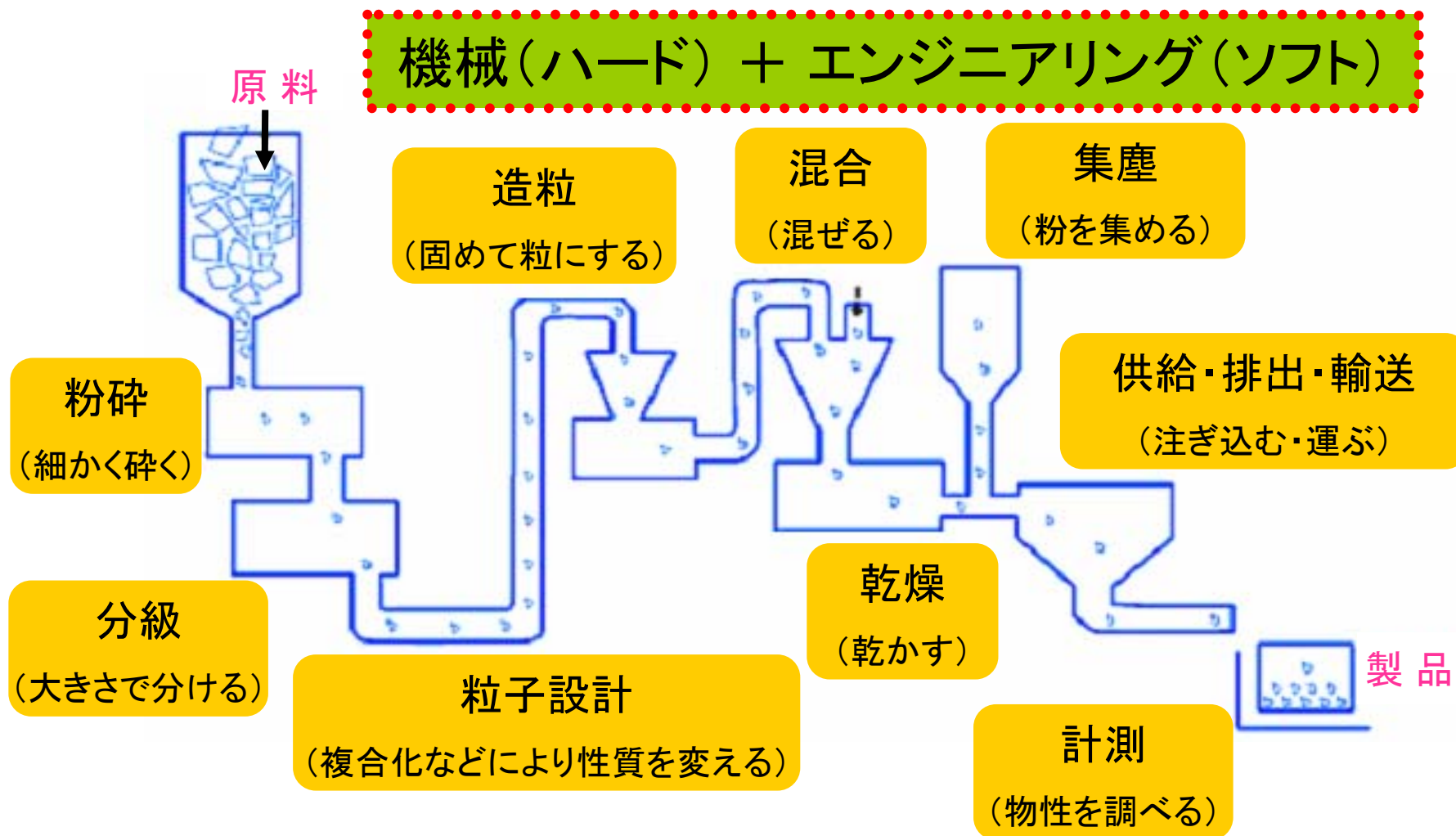
- **受託加工**

原料を預かり、当社機器を
用いて受託生産
⇒ 顧客の設備投資削減
に貢献



ホソカワミクロンの粉体関連事業(モデル図)

身のまわりの製品の大部分は、製造工程(原料・中間工程)や最終製品で“粉体”が使われている。



3つの事業 / プラスチック薄膜関連事業

- ・ プラスチックフィルム製造用インフレーションフィルム押出成形装置およびその周辺機器の開発・製造・販売
 - ⇒ 多層高機能性フィルム (3層を中心に9層まで)
 - 高機能性 = ガスバリア機能 など

用途: 食品、医薬品の包装用フィルム、
電子機器の保護フィルム など

携帯電話・液晶テレビ
などスクリーン用保護フィルム



スタンドアップ型のパウチ



容器密封シール



プラスチックフィルム



3つの事業 / 製菓関連事業

- ・ 欧米を中心にハードキャンディ、チョコレート、ベーカリー装置の製造、エンジニアリングと販売
- ・ ニッチな製菓製造ラインに伝統的な強みを持つ
- ・ 製菓業界のトップブランドのひとつ
- ・ 2010年9月に、ラインガルテン(ドイツ)に**新テストセンター**を建設
⇒ 当社の強みである“**One-Spot Shopping**”による原料調合から最終製品までの**一貫テスト**が可能



ハードキャンディ



チョコレート



ベーカリー(クッキー)

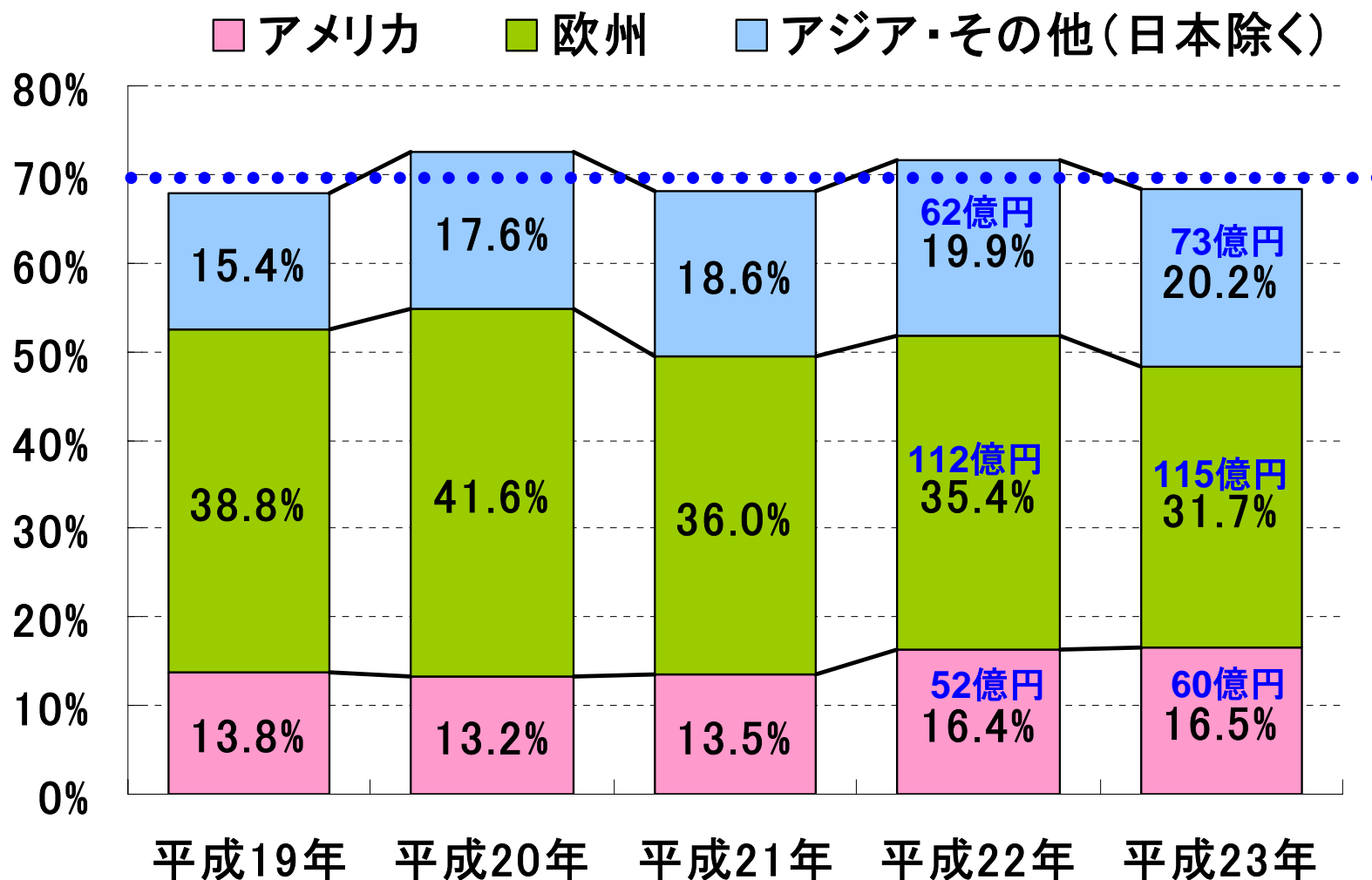


3. 特徴

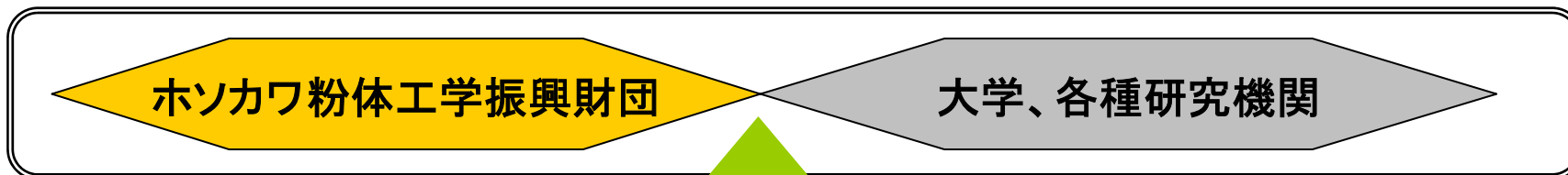
- ・グローバル企業（海外展開）
- ・安定性（業種横断的技術）
- ・信頼性（高付加価値性）

平成23年9月期 決算

海外売上構成の推移



ホソカワミクロンの粉体技術を支える研究開発とテストセンター



<国内>

<海外>



ホソカワミクロン(株)
・粉体工学研究所
研究 & 技術開発

【研究開発】

ホソカワ アルピネAG(独)
ホソカワミクロンB.V.(蘭)
ホソカワミクロンInt'l(米)

ホソカワミクロングループ
国際R&D会議

ホソカワミクロン(株)
・枚方テストセンター(大阪)
・つくばテストセンター(茨城)
・分析評価センター(大阪)

【テストセンター】

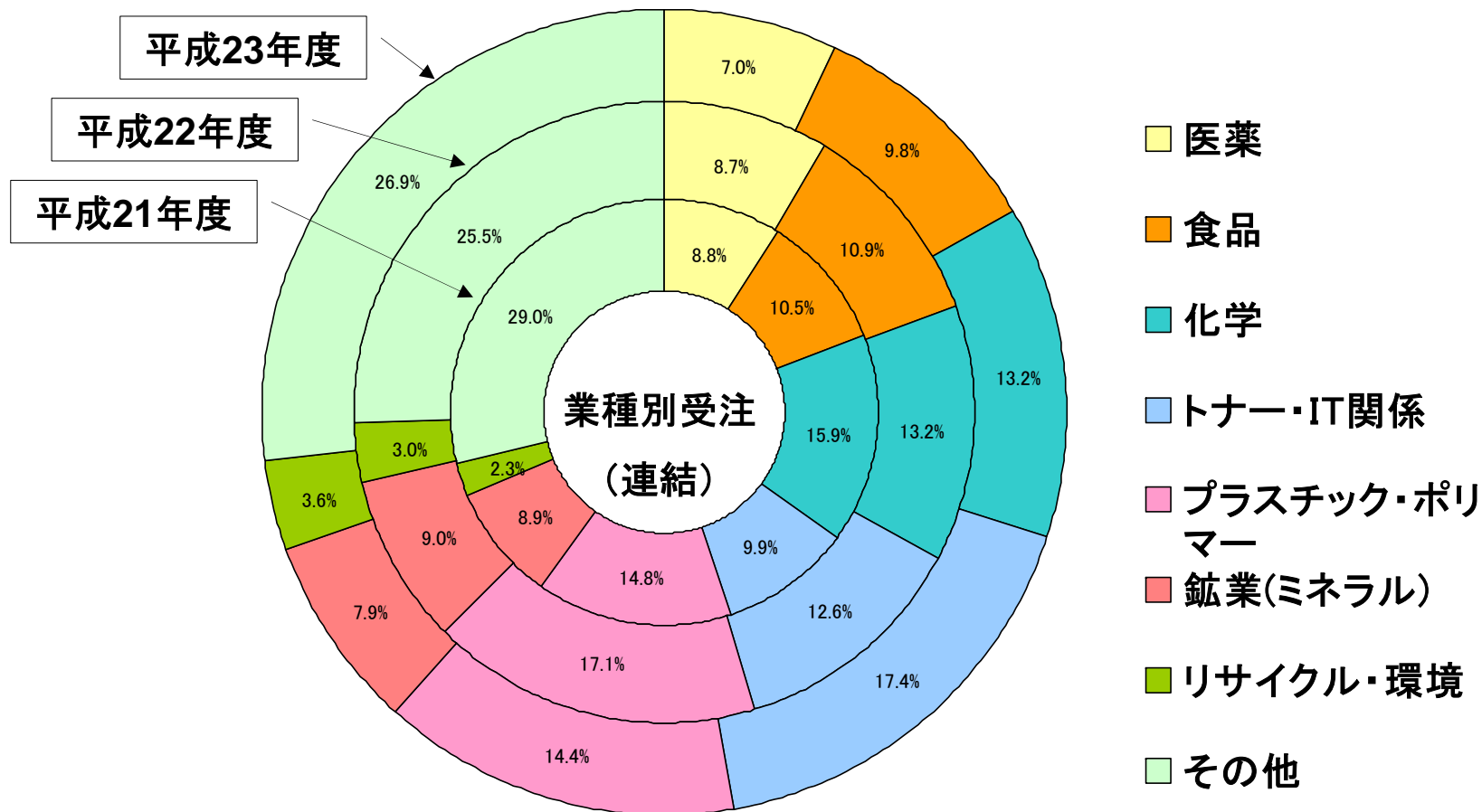
ホソカワ アルピネAG(独)
ホソカワビーベックスGmbH(独)
ホソカワミクロンB.V.(蘭)
ホソカワミクロンLtd.(英)
ホソカワミクロンInt'l(米)

国内だけでも年間約 1200件の
テストが行われている。



業種横断的に利用される粉体技術

当社の業種別受注構成比の動向（連結）



あらゆる産業分類で必要とされる“粉体技術”

特定業種に依存しない ⇒ 安定性

ホソカワミクロングループの信頼の源は？

1. 90年超にわたる粉体一筋の**経験・ノウハウ**と**最先端技術**に裏付けられた製品、システム、エンジニアリング

粉体技術連峰＝約300機種の製品とそれらを結ぶエンジニアリング

2. **テストセンター**での実証・知見（原料、製品別の膨大なデータベース）

テスト件数＝年間約3,500件（国内1,200件＋海外2,300件）

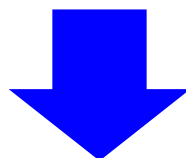
3. **研究開発型企業**（特許：国内323件、海外174件、国内実用新案：115件）

（2011年10月1日現在）

4. 強固な**産学連携**（1991年 ホソカワ粉体工学振興財団設立）

5. 各種シンポジウム、講演討論会を毎年開催（1960年代から40年以上）

専門学術誌「粉砕」（1957年～）、英文専門学術誌「粉 KONA」（1983年～）



永年の**経験（ノウハウ）**と**卓越した最先端の技術**を持つ「ホソカワミクロン」は、絶えず進歩を続ける産業界に“**必要不可欠な存在**”

国内での「ものづくり」の重要性

1. 一品一様の生産

- ・受注生産(大量生産機器ではない)
- ・顧客の要望にキメ細かく対応可能

2. 高付加価値製品

- ・永年の経験・ノウハウに裏打ちされた機器
⇒ 簡単にコピーできない
- ・技術課題にチャレンジングな解決姿勢

国内生産 ⇒ 技術・ノウハウの集結 ⇒ 品質安定性／独自性

信 頼 性

4. 経営方針

- ・基本方針
- ・コーポレートビジョン(理念)
- ・ミッションステイトメント(使命)

基本方針

1. 粉体技術の開発
2. 国際化
3. 人材集団の形成

コーポレートビジョン（理念）

ホソカワミクロングループは、“**粉体技術連峰**”の形成により、常にグローバル・リーディングカンパニーであり続けます。プロセス機器、システムエンジニアリングおよび新素材の開発、製造、実用化などにより次世代先端産業を創出し、“**粉体技術連峰**”の新たな展開を実現してまいります。



ミッションステイトメント（使命）

ホソカワミクロングループは、経済的かつ優れた技術をもって顧客の多様なニーズに的確に対応してその満足を得るとともに、倫理的指針に基づく活動を通じて社会に貢献し、自然環境の保護に努め、次世代のための環境保全に取り組む。また従業員の積極的なチャレンジを可能にする充実した職場作りを推進し、株主への適切な利益還元を行うことを使命とする。

5. 業績推移

- ・損益計算書(業績推移)
- ・貸借対照表
- ・キャッシュ・フロー

平成23年9月期 業績結果

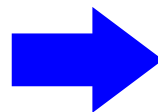
(単位:億円)

	平成22年9月期		平成23年9月期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
売上高	315.87		361.71		45.84	14.5%
営業利益	7.39	2.3%	27.53	7.6%	20.14	272.5%
経常利益	6.36	2.0%	26.91	7.4%	20.55	322.5%
当期純利益	3.36	1.1%	16.52	4.6%	13.16	391.6%

<増減要因>

(単位:億円)

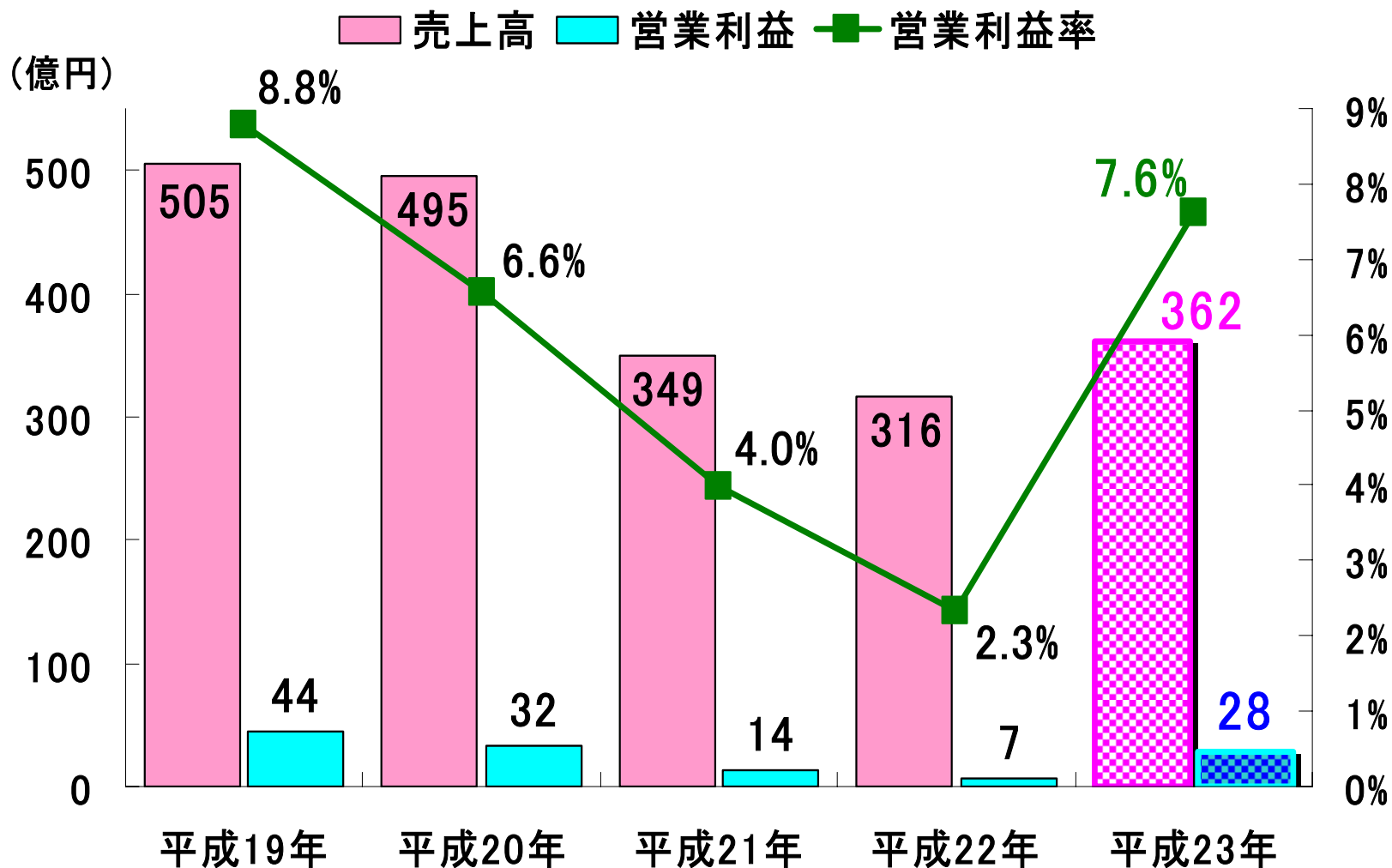
	売上高	営業利益
為替差	▲ 20	▲ 1
数量差等	66	21
合計	46	20



	平成22年 9月期		平成23年 9月期
EURO	121.50円	⇒	113.09円
US\$	89.58円	⇒	81.15円

平成23年9月期 業績結果②

売上高、営業利益、営業利益率の推移



平成23年9月期 財務諸表

連結貸借対照表 (資産)

【資産】

(単位:億円)

	平成22年 9月末	平成23年 9月末	増減	増減内容
流動資産	230.98	223.70	▲ 7.28	・現預金 ▲18.04(社債満期償還) ・受取手形/売掛金 +10.59(売上増加)
固定資産	167.01	166.68	▲ 0.33	
有形固定資産	153.94	149.88	▲ 4.06	・円高による換算差
無形固定資産	2.23	3.78	1.55	
投資その他の資産	10.83	13.01	2.18	
繰延資産	0.03	-	▲ 3.00	
資産合計	398.03	390.39	▲ 7.64	

平成23年9月期 財務諸表

連結貸借対照表（負債、純資産）

【負債・純資産】

(単位:億円)

	平成22年 9月末	平成23年		増減内容
		9月末	増減	
流動負債	144.48	122.84	▲ 21.64	・1年内償還社債 ▲34.04(償還) ・前受金 +8.92(受注増加)
固定負債	65.92	73.51	7.59	・長期借入金 +10.19(社債借換)
負債合計	210.41	196.35	▲ 14.06	
株主資本合計	243.58	259.99	16.41	
その他包括利益累計額合計	▲ 55.96	▲ 65.96	▲ 10.00	・円高進行による
純資産合計	187.62	194.03	6.41	
負債純資産合計	398.03	390.39	▲ 7.64	
自己資本比率	47.1%	49.7%	2.6%	

平成23年9月期 財務諸表

連結キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	平成22年 9月期	平成23年		増減内容
		9月期	増減	
現金及び現金同等物の期首残高	71.38	81.02	9.64	
営業活動による キャッシュ・フロー	22.91	30.02	7.11	営業大幅増益、前受金増加
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 9.74	▲ 7.63	2.11	大型設備投資の減少
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 0.15	▲ 37.06	▲ 36.91	新株予約権付社債の満期償還
現金及び現金同等物 に係る換算差額	▲ 3.37	▲ 3.26	0.11	
現金及び現金同等物 の期末残高	81.02	63.08	▲ 17.94	

6. 今後の見通し

- ・第14次中期3カ年計画
(平成24～26年度)
- ・注目市場の動向
- ・ホソカワミクロンの将来像

第14次中期3カ年計画（平成24～26年度） 基本方針

新興国市場の成長等に代表される事業環境の変化への柔軟かつ迅速な対応

1. 粉体技術連峰の発展と強化

- ・新興国市場でビジネス展開力の強化
- ・環境保護(CO₂削減)ビジネスの取組み強化
- ・人材育成の加速

2. 成長戦略

優れた技術、製品を創出し、応用分野・市場でより強固なポジションを確立することにより更なる成長を図る

- ・販売機種種の拡大
- ・ナノマテリアルビジネスの拡大

3. 収益力向上戦略

企業体質の強化による収益力向上の実現

- ・新製品の市場投入の加速
 - ・アフターセールス活動の強化
 - ・受託加工事業の強化
- ⇒ 新製品売上比率 目標30%
 - ⇒ 特にアジア圏に注力
 - ⇒ 高収益事業

第14次中期3カ年計画

概要（連結）

平成26年9月期 ⇒ 売上高営業利益率10%

(単位: 億円)

	平成23年 9月期 実績	平成24年9月期		平成25年9月期		平成26年9月期	
		計画	前年比	計画	前年比	計画	前年比
売上高	361.71	390	7.8%	405	3.8%	420	3.7%
営業利益 (売上高比)	27.53 7.6%	28 7.2%	1.7%	35 8.6%	25.0%	42 10.0%	20.0%
経常利益 (売上高比)	26.91 7.4%	27 6.9%	0.3%	34 8.4%	25.9%	41 9.8%	20.6%
当期純利益 (売上高比)	16.52 4.6%	18 4.6%	8.9%	24 5.9%	33.3%	28 6.7%	16.7%

【為替レート】

US\$(円/US\$)	81.15	80		80		80	
EURO(円/EURO)	113.09	110		110		110	

第14次中期3カ年計画

概要（大型受注残高案件）

	向け先	セグメント	用途
1	日本	粉体	トナー
2	日本	粉体	IT関連
3	ロシア	プラスチック薄膜	薄膜フィルム
4	アメリカ	製菓	製菓
5	中国	粉体	電池材料
6	ノルウェー	粉体	ミネラル
7	日本	粉体	医薬
8	日本	粉体	電池材料
9	中国	粉体	電池材料
10	日本	粉体	トナー

第14次中期3カ年計画

施策（粉体技術連峰の発展と強化）

新興国市場でビジネス展開力の強化

地域	施策
中東	駐在事務所を設置
中南米	販売代理店契約
ロシア	販売代理店網拡大
東南アジア (マレーシア)	グループ各社より技術者を派遣

【新興国での受注推移】

(単位:億円)

平成23年 9月期	平成24年 9月期		平成25年 9月期		平成26年 9月期		
実績	計画	前年比	計画	前年比	計画	前年比	平成23年 9月期対比
81	98	21.2%	100	2.7%	106	6.1%	32.0%

第14次中期3カ年計画

施策（成長戦略）

ナノマテリアルビジネスの拡大

化粧品：OEM事業の拡大

育毛剤：大手通販会社との協業拡大と自社販売強化



第14次中期3カ年計画

施策（収益力向上戦略①）

新製品の市場投入の加速

粉体特性評価装置『パウダーテスター PT-X』

⇒ 粉体評価の世界標準へ

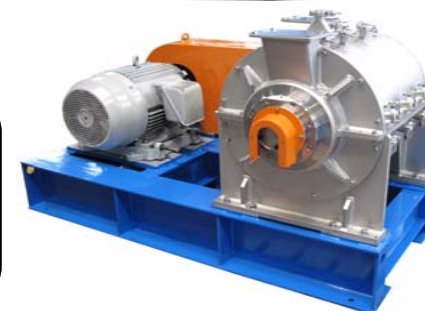
高冷却型機械式微粉碎機『グラス』

⇒ トナー製造プロセス用次世代新型機

新機構フィルタ交換構造集じん機『BAG IN-BAG OUT』

⇒ 医薬品分野を中心に環境関連事業の中核を担う

目標＝売上高新製品比率 30%



第14次中期3カ年計画

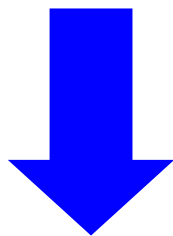
施策（収益力向上戦略②）

アフターセールス活動の強化

アジア市場への展開

⇒ 高収益事業の更なる発展

アジア市場での機器販売は好調



機器納入後の消耗部品、
保守・整備が必要増大

機器販売先への定期的な訪問により、ビジネスチャンス
を逃すことなく受注拡大へ



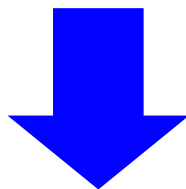
第14次中期3カ年計画

施策（業務提携）

日清エンジニアリング株式会社との業務提携

平成23年11月 業務提携契約を締結

- (1) プラントエンジニアリングサービス
- (2) 機器販売
- (3) 粉体受託加工



協業による販売促進を目指す

※日清エンジニアリング株式会社は、株式会社日清製粉グループ本社の100%子会社

第14次中期3カ年計画

施策（新東京事業所の建設）



関東地区事業所統合

現柏事業所を拡張し、分散した3拠点（板橋、柏、つくば）を統合

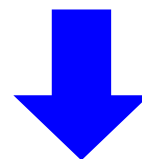
板橋（営業、技術、総務、経理） ⇨ 統合

柏（メンテナンスサービス）

⇒ 営業、技術、総務、経理、テストセンター、メンテナンスサービス

つくば（テストセンター、受託加工）

⇒ 受託加工、テストセンター



①高付加価値技術の情報集約拠点の充実

⇒ 次世代技術開発の発信地へ

②事業運営の効率化

③顧客満足度向上

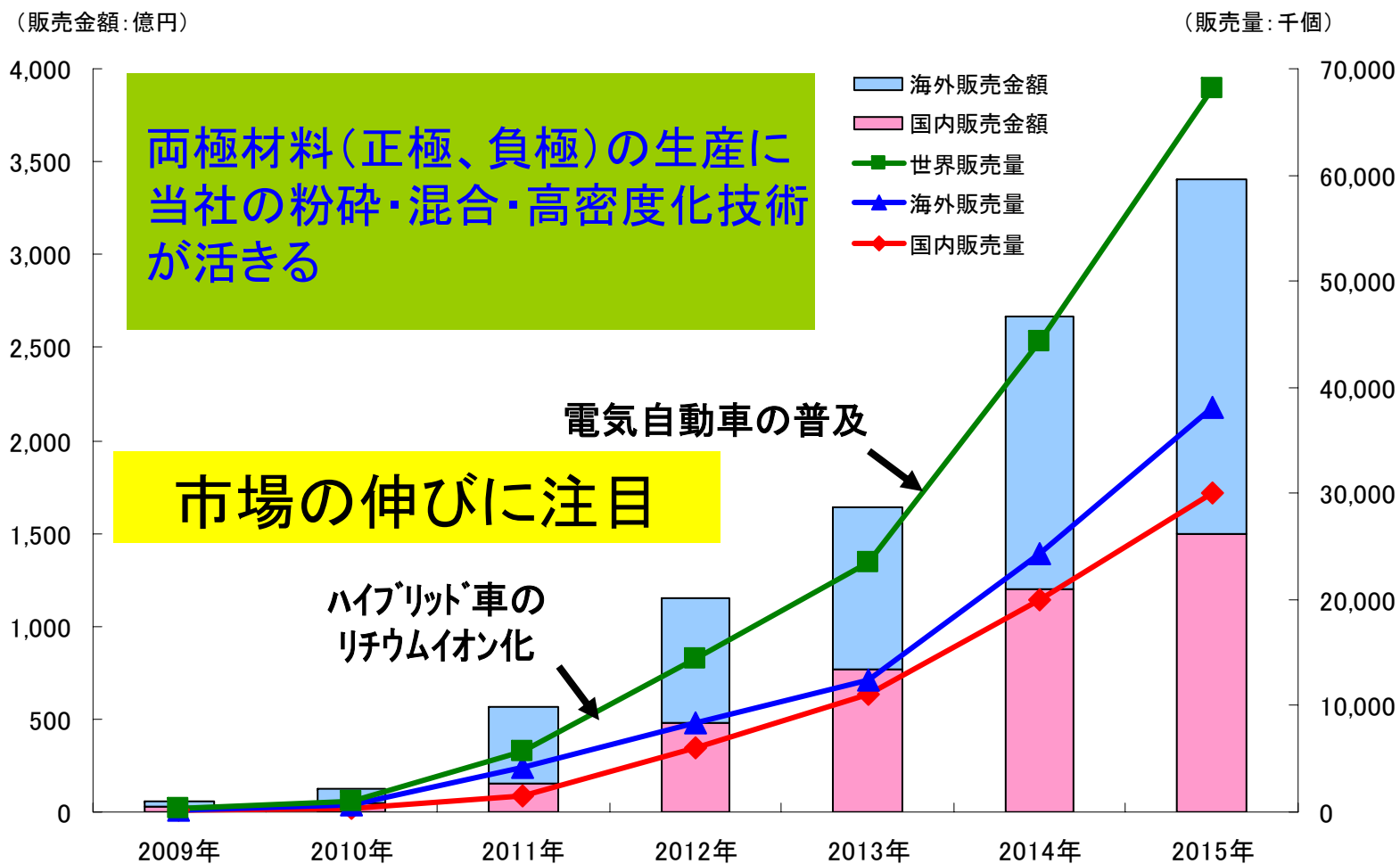
新東京事業所の概要

完成予定：2013年4月末

総工費：約14億円

総敷地面積：3,800平方メートル

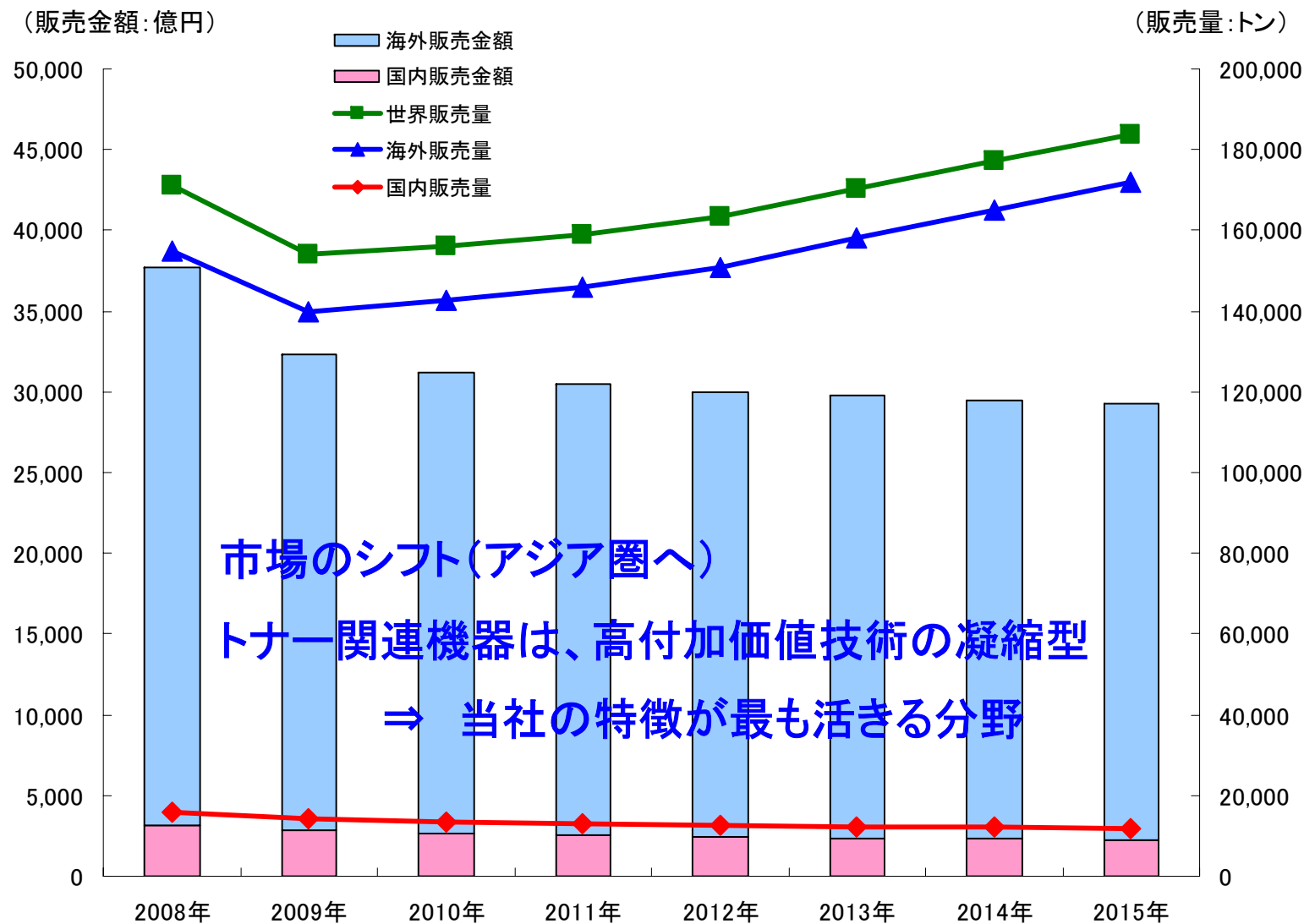
二次電池(リチウムイオン電池、自動車用途)市場の将来性



<2011 有望電子部品材料調査総覧 上巻、富士キメラ総研より>

当社のリチウムイオン電池関連の受注高推移
 2009年:13億円 2010年:18億円 2011年:23億円

トナー市場の将来性



市場のシフト(アジア圏へ)
 トナー関連機器は、高付加価値技術の凝縮型
 ⇒ 当社の特徴が最も生きる分野

<2011プラスチック高機能化材料の現状と将来展望、富士キメラ総研より>

ホソカワミクロンの将来像

グローバル企業として
最先端の粉体技術の創造を通じて
社会に貢献する

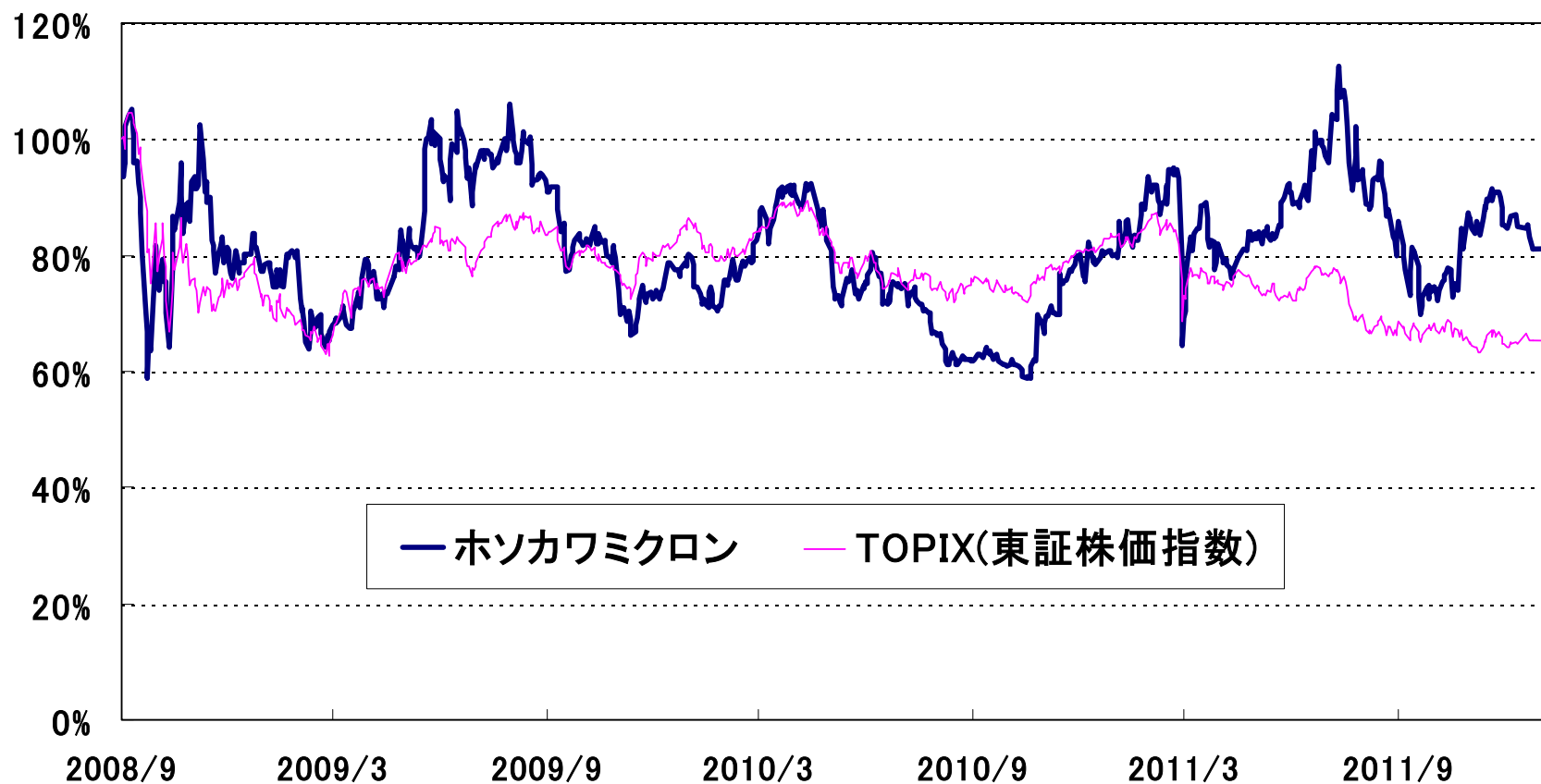
7. 株主還元

- 株価の推移
- 配当政策

株価の推移①

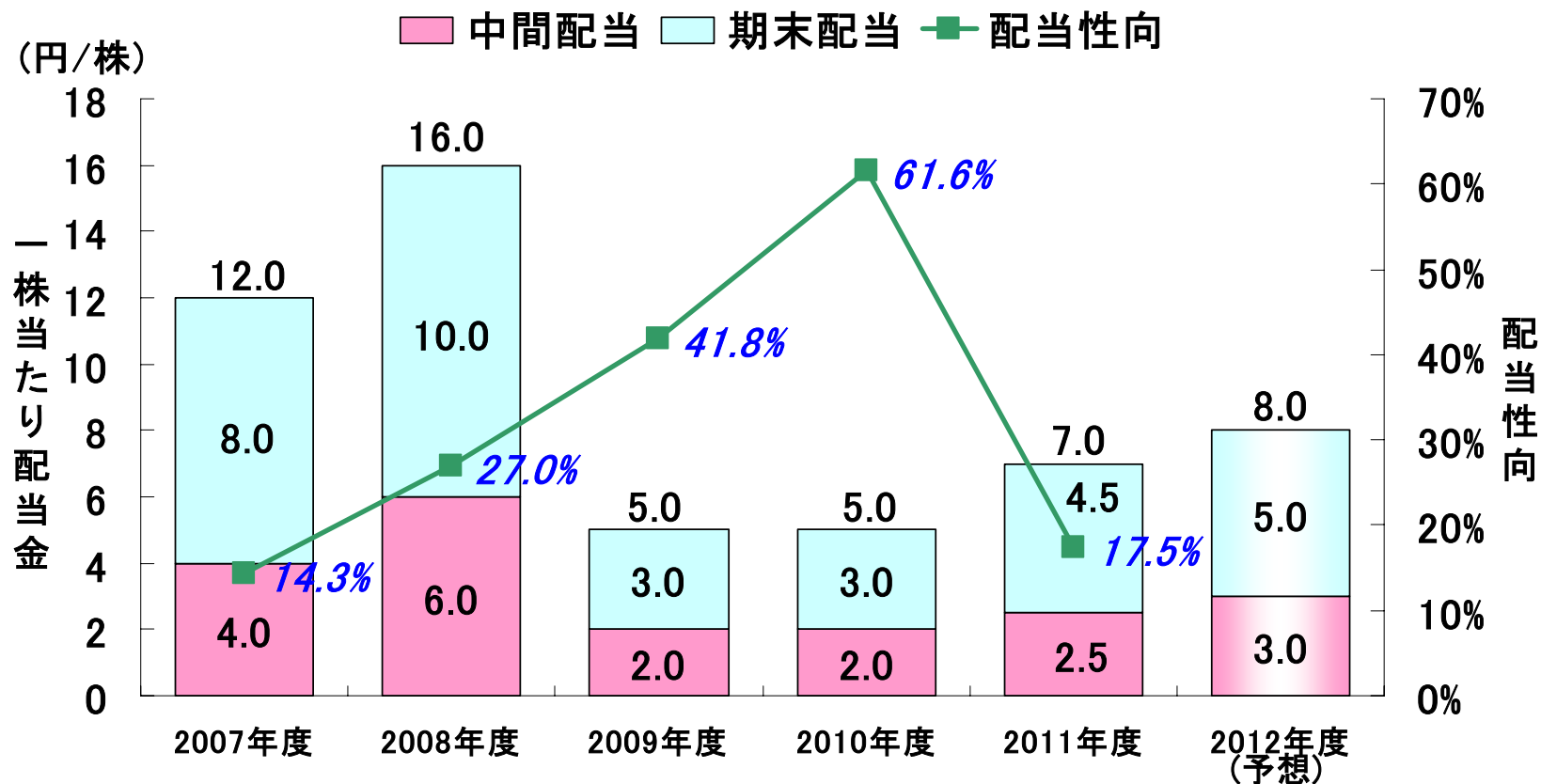


株価の推移② (2008.9基準)



2008年9月(リーマン・ショック)時点を100として推移を指数化

一株当たり配当金と配当性向（連結）



- ・配当性向30%を目処として、安定配当を実施
- ・配当金増加に努める

ご静聴ありがとうございました。

なお、本資料に記載されている業績予想、将来予想は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。